



## 輝く笑顔が支える地域

～ボランティア交流集会開催～  
(関連記事3面こてまりに)



ステージ発表に、にこやかな参加者（写真右）  
日頃の練習の成果を笑顔とともに披露するフラダンスのステージ（写真上）

記録的な大雪に見舞われた2月8日土曜日、松本市ボランティア交流集会が開催されました。これから本格的に動き出す地域づくり。その地域づくりにボランティアパワーは不可欠です。午後の講演会でも、信州大学経済学部井上信宏教授から「高齢社会では普段の暮らしの支えあいこそが地域づくりの基礎にある」という事例をお聞きしました。また「制度や社会を変えることだけでは不十分であり、助け上手なひと、助けられ上手なひとに〈私〉が変わること」だと強調されました。しんと降り積もる雪の中で、会場は笑顔があふれていました。この大勢の笑顔が家族を支え、仲間を支え、地域を支えているのです。そして、「楽しかったよ」「また来年も来るからね」と職員にも声をかけてくださいました。悪天候にもかかわらずご参加いただき、最後まで交流を楽しみ社協の事業も支えてくださっているみなさん、ありがとうございました。

- ・庄内地区の福祉を推進…………… 2 P
- ・安曇地区社協「見守り支援ネットワーク事業」…………… 2 P
- ・松本第一高校 東 萌実さん エッセイコンテスト入賞！…………… 3 P
- ・地域に根ざした医療をめざして…………… 3 P
- ・ボランティア情報「こてまり」…………… 4～5 P
- ・赤い羽根共同募金へのご協力ありがとうございました…………… 6 P
- ・平成25年度社協会費と寄付のお礼…………… 6 P
- ・平成26年度日赤社資募集運動にご協力ください…………… 6 P



平成26年 No.202  
3月1日号

発行 社会福祉法人 松本市社会福祉協議会 電話 27-2000  
編集 社協まつもと編集委員会 FAX 27-2239  
E-mail: syakyoun@avis.ne.jp http://www.syakyo-matsumoto.or.jp

# 地域福祉コーディネーター、ただ今奮闘中！ — 庄内地区の福祉を推進 —

庄内地区社協では、市社協からの助成金を財源に、地域福祉コーディネーターを配置し、地域の課題に応じた新たな事業として、「ボランティア組織づくり事業」に取り組んでいます。

庄内地区の福祉活動は子どもや高齢者、障害者を対象とした活動、地区や町会行事を支援する活動など、多岐にわたり積極的に取り組まれています。それぞれが個別に活動している状況です。

そこで、各ボランティアが連携する組織づくりを目的として、有賀由延地区社協支会長さんをはじめ、役員の皆さんが中心となって企画立案し、事業を進めています。



有賀支会長から開講宣言

山ノ内町の「わくわく商店街」(サロン)利用者  
と庄内地区の交流



なかでも、ボランティア調査や実態把握等の取りまとめなど、地域福祉コーディネーターの武居敏男さんが、活動を推進する要の働きをしています。

主な内容は、ボランティア活動の実態把握、講座の開催などで最終的には「庄内地区ボランティア連絡協議会の設立」をめざしています。先進的な活動を進める地域から講師を招いての学習や視察などを盛り込んだ講座を5回シリーズで開催し、50名が受講しています。

受講生からは、「ボランティア活動を改めて学ぶ機会になり、大いに励まされ元気をもらった」「ボランティアをする側もされる側も気持ちよく支え合える組織は、まちの誇りになる」などの声が聞かれ、意識の向上につながっています。

役員の皆さんは、「ボランティア活動は個々では活発に行なっているけれど、組織としてのつながりが

なかったため、地区がひとつになる受け皿ができそう」「各団体との連携が整うと、特に有事の時には助け合える」と、ボランティアパワーの結束が地域づくりを担う大きな力になることに期待を寄せています。地区の福祉活動を一層活性化しようとの意気込みで、福祉のまちづくりが進んでいます。

# 地域で支える新たな取り組み — 安曇地区社協「見守り支援ネットワーク事業」 —

安曇地区社協では市社協の助成金を活用して、「見守り支援ネットワーク事業」の取り組みを始めました。

この事業は、希望する一人暮らしの高齢者や高齢者世帯等の方を対象に冬期間、灯油販売店が灯油の補充時に安否確認を行ない、地区社協、民生委員と情報を共有して見守りをする活動です。

安曇地区民生委員・児童委員協議会に協力いただき、高齢の方から日常生活の困りごと等を聞き取り、地区内の灯油販売店の賛同を得て、1月から開始しました。

販売店は対象者宅で灯油を補充した後、声かけを行ない報告書に記録します。報告書は3枚複写になっていて、地区社協、民生委員・児童委員協議会にも報告されます。訪問時に異常があり急を要する場合は、すぐに地区社協事務局に連絡が入り、担当民生委員と連携して必要な対応を行ないます。報告書のチェック、民生委員への連絡、この事業にかかわる事務は奥原しげ子地域福祉コーディネーターが担っています。

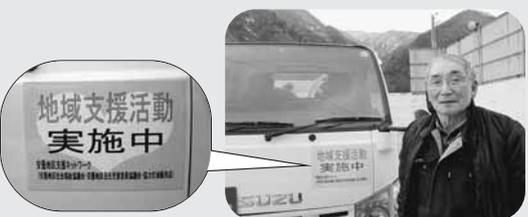


日頃の生活の様子を伺う

3つある地区内灯油販売店のうち、川上燃料店・川上実蔵社長は「責任も感じるが、地域に貢献する活動に加わることができて、とてもやりがいがある」と、話していました。

また、25名の対象者のお一人は「一人暮らしで特に冬の間は外出することも少なく、顔なじみの燃料屋さんがかけてくれて安心。民生委員さんもいつも親身になって話を聞いてくれるので嬉しい」とおっしゃっていました。

今後は、郵便局や農協など安曇地区に関わりのある様々な方とも連携し、「地域の皆さんが自ら地域を支えるネットワーク」として広げ、高齢であっても安心して住み慣れた安曇地区で生活が送れるように支援したいと思います。



これから灯油をお届けします

# あしちゃん

作・上原ゆり子



## 等身大の実体験をつづる

### 東 萌実さんエッセイコンテストで入賞!

松本第一高校3年生 東 萌実さんのエッセイが日本福祉大学(愛知県)の「第11回高校生福祉文化賞エッセイコンテスト」で応募総数9,152点の中から最優秀賞に選ばれました。東さんはエッセイにつづった体験を振り返りながら、「励ましの気持ち、広い心で受けとめる優しさを学びました」と話しています。また、今後は大学へ進学をして福祉を学び、「人の幸せを手助けしたい」と、将来について力強く語っていました。今回、最優秀賞に輝いた「太陽の絵ハガキ」を原文掲載します。“松本っ子”の優しい心にふれてみてください。



最優秀賞の東さんと思いの太陽の絵ハガキ

## 太陽の絵ハガキ

松本第一高等学校 三年 東 萌実

「お姉ちゃん服かわいいな」。声が聞こえ周りを見わたす。さまざま年齢の方がいる。養護学校の重度障がい者のクラス。自分の言葉で意志を伝えるのが難しい方ばかりだ。どこから声か?不安に思い、ふりむくと、ベッドで横になり、ほほえむ女性と目が合った。彼女と仲よくなった私は、三十歳年上の友達と文通を始めることにした。送られて来る手紙は、彼女の言葉が家族が代筆していた。文字を書くのは、困難なのだろう。けれども、彼女は絵を描くことが好きだった。ハガキの裏には、彼女が時間をかけ筆で描いたであろう水墨画が印刷されていた。色々な構図の、墨の激しいタッチで描かれた森。どの森の上にも、赤い太陽が昇っていた。絵の中の太陽は、彼女の笑顔そのものだった。文通を続けると、ハガキが多くなった。たので彼女の絵を部屋に飾った。力強い太陽の絵ハガキを見ていると、元気が出た。「いつか彼女に個展を開いてほしい」と、思った。

文通をしていると、お互いに好きなものが似ていて驚いた。クラシックやスポーツの話をした。彼女が好きなサッカー選手を写真に撮って送ると「ありがとう」と、とても喜んだ。私が悲しい時には「負けないでください」と励ましの手紙を送ってくれた。私は、いつも「お身体、自愛ください。またお手紙書きます」と書いて送った。そして、彼女から、ハガキが来ることは、一生なくなった。彼女へハガキを送ることも二度とできなくなった。悲しくて辛かった。もつと話したかった。後日、私が送ったハガキは、一度抱きしめてから、ベッドの横に飾って彼女はいつも見ていたと知った。

今、私の部屋は、彼女の描いた太陽の絵ハガキで囲まれている。真っ赤な太陽を見ていると、彼女が「負けないで」と応援してくれている気になる。まるで小さな個展会場のようなその部屋には、彼女との日々が色あせることなく飾られている。

## 地域に根ざした医療をめざして 医学系学習サークル「わらわら」

内容は、応急処置、出生前診断、地域医療、発達障害、心のケア、子育て支援、生活保護、成年後見制度、震災、ボランティア活動、健康づくり等、多岐にわたります。サークル参加の根底には、医学的知識だけでなく、社会問題や制度を知らない、地域で求められる医療ができない、という強い思いがあります。各自、授業以外に学びたいテーマで、意見をしっかりと伝え、また仲間の考え方や提案を聞くことで、学ぶことの楽しさ、他の考えを知る楽しさ、人と関わること



学年を越えて、笑顔で打合せ



仲間の誕生日を手づくりで祝う

「わらわら」とは、医師や看護師等をめざす信州大学と長野県看護大学の学生で構成する学習サークルです。月に一回は両大学が集まり合同学習会を行なっています。

内容は、応急処置、出生前診断、地域医療、発達障害、心のケア、子育て支援、生活保護、成年後見制度、震災、ボランティア活動、健康づくり等、多岐にわたります。サークル参加の根底には、医学的知識だけでなく、社会問題や制度を知らない、地域で求められる医療ができない、という強い思いがあります。各自、授業以外に学びたいテーマで、意見をしっかりと伝え、また仲間の考え方や提案を聞くことで、学ぶことの楽しさ、他の考えを知る楽しさ、人と関わること

との楽しさを共有しています。

新年早々の合同学習は、8月に信州大学へ全国から四百人が集う、第57回医学生ゼミナールの打ち合せ。1年から4年生までの17名が受入れ体制について活発に意見交換を行いました。医療の道を選んだ動機は「祖父をガンで亡くしたので、ガンを治したい」「社協でケアマネージャーとして働いていた父を見て、人を支える仕事がしたくて」「様々な職種の方と連携して、患者さんと向き合いたい」「小児科医不足に貢献したい」「手術後の患者さんのケアとともに、家族との関わりを大切にしたい」などです。

医療者としての志を大切に、患者に寄り添える医師・看護師として巣立つことを期待して、彼らを見守りたいと思います。

# ボランティア情報 **こてまり**

- 「こてまり」はこんな情報を発信しています！ \* \* \* \* \* ボランティア活動についての情報・活動者、団体の紹介・講習会や行事などの紹介
- 問い合わせ／記事掲載の申し込み \* \* \* \* \* 松本市社会福祉協議会内ボランティアセンター TEL (0263) 25-7311 FAX (0263) 27-2239

## あたたかな春が そこまで・・・

### 今年も楽しく!! ボランティア交流集会

ウェルカムコンサート  
北山結香さん



雪の中おいでいた  
だいた参加者



フラスタジオ ナーリコ  
オカレイヒバの皆さん



マジックの百瀬稔さん



プラチナサポーターズ



声楽家の  
小松規美子さん



信州大学井上教授の講演



ハンドベルの  
ベルエコーズの皆さん



社協職員の熱演

### みなさんのこのパワーが 地域の資源!

今年もたくさんのおみなさんが足を運んでくださいました。ボランティア活動の発表では、会場が一体となる場面もあり、やっていることはそれぞれ違っていても、同じ心があるのだと感じました。午後は信大経済学部教授の井上先生から、「高齢社会の地域づくりにおけるボランティアの役割」について講演していただきました。事例をあげたわかりやすい内容と気持ちのこもった話し方に、参加者のみなさんもうなずきながら聞き入っていました。地域の高齢者の孤立を防ぎ、住み慣れた場所で安心して最期を迎えられる仕組みは、行政や病院よりも身近にいる人たちの気づきが大切。困りごとに気づき、生活を支えあうご近所のつながりがキーポイントになるとのことでした。「だったら自分ができることは何だろう?」とそれぞれが考えるきっかけとなりました。

社協劇団の寸劇がDVD化!  
ご希望があれば貸出します  
ぜひご利用ください

# 学校は地域との交流の場

ボランティア  
活動紹介



学校に出向き、さまざまな活動をとおして子どもたちと交流するボランティア活動が増えてきました。主にシニアのみなさんが自分の経験や特技を活かして子どもたちに伝える、反対に若いパワーをもらえる。そして、学校の外で会ってもあいさつができるなど、一石二鳥にも三鳥にもなる活動です。

島立小学校で授業に参加した地元島立地区のメンバーは、マイ箸を入れる袋づくりを支援しました。手の使い方や、真っすぐに縫うコツなどベテランならではの的確なアドバイスで、ほとんどが時間内にできあがり、笑顔いっぱいでした。参加者も「学校に入るの久しぶりだよ」「子どもの賑やかな声っていいね」「また来たいね」と楽しそうでした。



マイ箸を入れる袋づくり



しめ縄づくりを伝授

芳川小学校では2年生、5年生の児童がお正月のしめ縄づくりを地域の方の支援で実施しました。最近はや家族化もあって家でしめ縄をなえる人が少なく、初めて見たという子が多いため、文化伝承の意味もあり地域の皆さんも力がはいります。後日お礼の手紙をもらって、涙が出そうになったという方もいました。「初めはむずかしくてうまくできなかったけど、教えてもらって作れたからうれしかった」と子どもの素直な気持ちが心に沁み込ましたそうです。お孫さんも離れて暮らしているの、地域の子もたちとのふれあいが癒やしのひと時になり、来年も元気で参加したいとおっしゃっていました。



## ～ボランティア活動中のケガにそなえて～ 平成26年度 ボランティア保険 受付開始

受け付けは松本市総合社会福祉センター5階（松本市社会福祉協議会事務局）、社協（四賀、安曇、奈川、梓川、波田）の各地区センター及び事業所、または松本市役所大手事務所2階（松本市市民活動サポートセンター）で行なっています。4月から安心して活動できるよう、お早めにご加入ください。

### ボランティア活動保険

★保険内容 ボランティア活動中、または活動の行き帰りの途中に起きた事故によるご自身のケガや賠償責任（他者にケガをさせてしまったり、物を壊してしまったりなど）を補償します。

ただし自動車による事故はボランティア自身のケガのみが補償の対象となります。

★保険料（年間）基本タイプ1名 A：300円、B：450円

（災害地での活動は天災に対応したタイプ A：460円、B：690円）

★加入の手続き 保険料と認印をお持ちのうえ、上記の場所においていただき申込書を記入してください。ご本人でなくても代表者や代理の方でも加入できます。

★補償期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日 1年間

★補償内容 入院、通院の給付額など詳細については、ボランティアセンターへお問い合わせください。



★ボランティア行事用保険 福祉活動などさまざまな行事における事故を補償します。

★送迎サービス補償 自動車での送迎サービス中の事故による利用者のケガを補償します。

\*事故が発生した際には速やかにご連絡ください

問い合わせ・連絡先：社協内ボランティアセンター 電話25-7311



# 赤い羽根共同募金へのご協力、ありがとうございました!

平成25年度の共同募金運動も市民の皆さまのご理解とご支援を  
いただいて、大きな成果をあげることができました。

募金運動期間中には、お住まいの地域での募金や企業様の窓口  
に設置させていただいた募金箱への募金、また学校や職場、イベ  
ント会場など市内各所でご協力をいただきました。

お寄せいただきました募金  
は、市内各地区に配分される  
ほか、市町村を越えた広域事  
業にも活用されています。

市民の皆さまのご協力、あ  
りがとうございました。



平成25年度の実績額

- ・目標額 35,390千円
- ・実績額 39,275千円
- ・達成率 110.9%

- 35地区社協事業へ  
敬老会、ふれあい会食会、子育て支援、  
町会福祉事業（福祉講座、見守り活動事  
業）等 13,653千円（35%）
- 市社協福祉事業へ  
「社協まつもと」発行、市社会福祉大会  
の開催、児童遊園地整備、福祉自動車や  
車いすの貸し出し等 8,927千円（23%）
- 県内の福祉事業へ  
社会福祉団体、社会福祉施設、被災世  
帯への配分等 16,695千円（42%）

## 平成25年度 社協会費と寄付のお礼

皆さまからお寄せいただいた社協会費・寄付  
は、松本市社協の地域福祉事業に活用させてい  
ただいているほか、市内35地区にある地区社会  
福祉協議会へ配分し、身近な福祉事業（活動）  
のために使われています。

平成25年度の社協会費

（総額 24,862,600円：

平成26年2月15日現在）

の実績は下記のとおりとなりました。  
ご協力ありがとうございました。

☆ 世帯会費は市内の全世帯をお願いしてい  
るものです。 77,407世帯 23,222,100円

☆ 施設・団体会費は市内の福祉施設・団体  
等をお願いしているものです。

52団体 106,000円



☆ 賛助会費は社協事業に賛同してくださ  
る法人・会社をお願いしているものです。

136団体 1,490,000円

☆ 特別会費は社協事業に賛同してくださ  
る個人をお願いしているものです。

45口 44,500円

☆ 寄付金 16件 962,816円

☆ 物品寄付 24件

車いす等の福祉用品のほか、アルミ缶  
や古切手、タオル類などたくさんのご厚  
志をいただきました。

◎ 社協への賛助・特別会員並びに寄付者の  
ご芳名は、次号に掲載を予定しています。  
匿名を希望される場合、社協地域福祉課  
（電話27-3381）へお申し出ください。

## 平成26年度 日赤社資募集運動にご協力ください!

日本赤十字社長野県支部松本市地区では、赤十字活動の財源と  
なる社資を、5月1日から始まる赤十字運動月間に合わせ、平成  
26年度社資募集目標額を37,677千円とし、社資募集運動及び受付  
を開始します。

赤十字の活動をご理解いただき、ご協力をお願いします。

皆さまにお寄せいただく社資は、東日本大震災で被災された  
方々の支援活動や赤十字の国際活動・災害救援活動・救急法講習  
会や地区・町会で行なわれる炊き出し訓練等に活用されます。



『社協まつもと』はみなさんからの共同募金の配分金で発行されています。